

令和5年度

学校関係者評価報告書



学校法人 トヨタ名古屋整備学園

専門
学校

トヨタ名古屋自動車大学校

I. まえがき

学校法人トヨタ名古屋整備学園 専門学校トヨタ名古屋自動車大学校では、平成25年3月に文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、本校全般の運営(経営、教育活動、財務、法令遵守、社会貢献等)について、令和4年度の現状を自己点検・評価して更なる改善・向上に取り組むとともに、自己評価報告書に基づき学校運営に関係の深い団体・企業様、保護者の方々のご意見を幅広くお伺いし、今後の学校運営や教務各般に反映させるために「学校関係者評価」を実施し、今般、報告書にとりまとめました。

学校関係者評価委員の方々のご意見・ご指導を賜りながら、職員が一丸となって改善を図り、今後も教育水準の向上に努めてまいります。

II. 学校関係者評価委員会の開催概要

1. 日時

令和6年3月8日(金) 14:30~16:00

2. 場所

専門学校トヨタ名古屋自動車大学校 第1・2会議室

3. 学校関係者評価委員会 評価委員(敬称略)

委員名	所 属 等	備考
小島 満	トヨタ自動車株式会社 サービス部 統括室	委員長
河口 直彦	清須市 企画部 部長	
青山 隆明	NTP名古屋トヨペット株式会社 サービス部 部長	
水野 啓介	当校高度自動車科生の保護者	

(学校側出席者)

氏 名	所 属 等
永田 透	理事・校長
水谷 伸彦	理事・管理部長
中村 雅彦	理事・教育部長
田中 幸作	教育部 部長代理
武藤 彰	管理部 総務室 室長(事務局)
仙田 佳彦	管理部 総務室 GM(事務局)

III. 委員会次第

1. 開会

2. 校長挨拶

3. 学校関係者評価委員の紹介

各評価委員の氏名・所属及び委員長に小島委員を学校側が委嘱

4. 令和4年度自己評価報告書の説明及び意見交換・質疑応答

5. 閉会

IV. 学校関係者評価

1. 実施方法

学校側より令和4年度の自己評価について、自己評価報告書を使用して基準1～基準10まで一項目ずつ達成状況、課題、改善事項等について報告し、各々の項目について評価委員よりご意見をいただいた。

なお、自己評価報告書の説明を事前に実施し、内容の理解促進を図った。

2. 評価結果

《基準1 理念と中長期計画》

(1) 自己評価結果

①総括と課題

基本理念や教育理念は、機会あるごとに、書類、ホームページなどにより内外に提示している。また、平成27年4月より環境変化と複数の設置学科に対応した内容に改定された。平成30年度からは毎朝、朝礼時に全職員で基本理念、教育理念などを唱和し意識の浸透を図っている。令和4年度は、唱和をコロナ禍で一時中止。

特徴とする技術教育と人間性教育は十分な知識を有する教員が主導し、教育理念とも整合性がある。その内容も就職先企業への定期ヒアリングなどにより適時見直されている。

②今後の改善方策

特に無し。

(2) 学校関係者評価結果

①評価委員会からのご意見・ご質問

特に無し。

《基準2 学校運営》

(1) 自己評価結果

①総括と課題

学校運営方針は、骨子に基づき定められ職員が理解している。運営組織は経営会議で意思決定がなされ、議案に応じて決裁制度(H11年策定・H21年一部変更)に基づき、学内稟議を経て校長決裁を行い、業務分掌化されて確実に展開している。また、決裁制度について、ラミネートした資料を管理職へ配布し徹底を図っている。また、経営会議内容を、運営会議・各部会議で展開している。

計画に基づき学校運営に必要な人材を育成しており、人事評価表と個別面談による評価システムも確立している。また、評価に伴う給与などの規定は規程集(就業規則などを記載)に定められ職員に周知されている。

教員採用は計画に準じて行い、事務員については欠員時に補充している。

②今後の改善方策

新任の管理職への決裁制度に対して説明の継続実施していく。

(2) 学校関係者評価結果

①評価委員からのご意見・ご質問

- ・ 東京校、名古屋校、神戸校で学生の資格取得とかの連携はありますか。
- ・ コンプライアンスについて、学生の意識はどうですか。

②学校側の対応

- ・ 3校連携をして情報交換をしています。各校の地域性もあるので、それぞれ地域性にあった独自の教育をしています。
- ・ 来年度より学生に対して、コンプライアンス授業を取り入れることを考えています。

《基準3 教育活動》

(1) 自己評価結果

①総括と課題

基本理念などが明確で、展開も適切といえる。年度ごとの目標は業界のニーズを加味し、毎年教育部方針として作成している。

授業運営にはシラバスが作成されており、シラバスの統一性確保のため教科予定・実績表へシラバス欄を付加した。また、学生による授業評価を実施し、都度フィードバック改善が行われている。一種養成基準を大幅に上回る授業時間数により専門教科に加え、資格取得、実践的な職業教育も十分と言える。

教員育成も[人財育成委員会]によって計画的に実行している。

進級認定は学則基準に基づき、会議にて客観的に審議している。

②今後の改善方策

業界ニーズを反映出来るよう、教育課程編成委員会を含め、意見交換の対象会社、地区を適切に選定し、継続的に実施する。また販売会社からの出向者6名より必要なスキルについてより迅速に反映できるよう改善を実施する。

授業アンケートの結果による教員のインストラクション技術について、随時反映・改善を実施する。

(2) 学校関係者評価結果

①評価委員からのご意見・ご質問

教員の整備技術の研修の評価までありますか。

②学校側の対応

教員の整備技術を向上研修を実施しているが、自動車整備は、100%できていることが前提であるため評価まではいたっていない。

教員は、国家1級自動車整備士を取得するため、校内研修を実施している。整備研修では、販売会社の出向者より、販売会社での実践的な整備方法を教えてもらっている。また、教員も販売会社に3か月の出向研修を実施している。

《基準4 学修成果》

(1) 自己評価結果

①総括と課題

学生教育、就職、資格取得、出席率・退学率の目標達成度は、部方針によって定められた目標と実際の結果(数値など)を比較することで行われている。

退学者低減のため、コミュニケーションを重視した学生の指導をキメ細かく、継続実施している。

意欲向上活動を実施して、退学率低減、出席率向上を図っている。

卒業生評価は、販売会社懇談会での聞き取り実施、卒業生アンケートを隔年ごとに行い、それらを授業計画に反映している。

受賞に関しては、明確な表彰基準に従って校内表彰を行っている。

②今後の改善方策

特に無し。

(2) 学校関係者評価結果

①評価委員会からのご意見・ご質問

要望として、口頭で説明があった数値があり、実施事項に対して、具体的に明記してあるとよい。

《基準5 学生支援》

(1) 自己評価結果

①総括と課題

就職指導・学生相談に関しては、就職専任職員と各クラス担任、更に遠方出身学生については府県別の担当職員も加わって、相談・アドバイスを行うサポート体制となっている。

経済的な支援体制や健康管理面の支援体制についても全体的に整っている。

適宜、学生相談に関する満足度調査を実施。その結果をもとに改善策立案を実施している。

②今後の改善方策

学生からの具体的な要望に基づき学生相談の改善を継続して行う。

留学生担当者表を職制表と照らし合せて、毎年更新する。

コロナの状況が改善しつつある中、下期後半にクラブ活動の方針が「クルマ軸への活動」方針変更となる。今後、活動内容の充実化を図る。

①評価委員会からのご意見・ご質問

特に無し。

《基準6 教育環境》

(1) 自己評価結果

①総括と課題

施設・設備や教材については設置基準をクリアしている。また、学生寮など学生生活を更に充実させるためのfree Wi-Fiなどの諸設備は充実している。学外の企業や教育機関との連携も目的を持って実施している。防災・安全面においても、法基準とも照らし合せ、十分な体制と訓練を実施している。また、安全教育も授業に盛り込み、保険や緊急マニュアルも備わっている。保険については、定期的に見直しを行い、必要なものに加え。オカナガン大学とは30年の深い関係にあり、当校の要望に対して積極的に対応しているが、業務上のやり取りについては、間違いを未然に防止するためにも書面で学校ファイルとして保管している。

また、短期留学の実施や運営等について、オカナガン大学と平成27年5月に契約書を交わした。令和4年度も、コロナ禍で、海外研修・留学を中止

②今後の改善方策

特に無し。

(2) 学校関係者評価結果

①評価委員からのご意見・ご質問

教材車には、古い車から新しい車もあるが、ベンチエンジンやリフトなどは、更新時期を決めて更新をしていますか

②学校側の対応

学校の教材・設備は必要なものは、更新を実施している。

リフトは、来年度更新予定。

《基準7 学生の募集と受入れ》

(1) 自己評価結果

①総括と課題

学校案内については当校ホームページ、パンフレット、募集要項を用いて具体的に分かりやすい内容を掲載し希望者には無料で配布している。

管理部 学生室 募集グループを専用窓口としていると共に、府県別募集担当職員も設置し、高校訪問による説明やオープンキャンパス、各地区における説明会など、直接接する機会を設けている。また、個別の相談会も毎回必ず設け、志願者が理解しやすい体制としている。直接来校できない志願者の為にオンライン学校説明会を実施している。

入学選考については、選考基準を設定し、適正かつ公平に選考を行っている。学納金については、実習内容・施設・教材を含め適時、妥当な内容となるよう見直しを行っている。他校との比較も行い適正水準を考慮したものとなっている。また、学費の分納制度を設け無理のない納入ができるようにしている。

②今後の改善方策

集パンフレットやホームページに掲載のデータや教育内容は、引き続き正確な内容を記載しながら、学校の内容を伝えるのみならず、自動車整備の魅力について今以上に最新の学校情報や自動車への興味喚起などトピックスを発信する。

(2) 学校関係者評価結果

①評価委員会からのご意見・ご質問

学生募集の実施内容を口頭説明ではなく、記載してある活動状況が理解しやすい。

《基準8 財務》

(1) 自己評価結果

①総括と課題

過去の収益データと見比べながら、今後の収益見通しを予測し、年度末収支予測、収入支出のバランスを確認しながら、予算業務を行っている。
年度予算は、予算会議にて実施要件を確認し、予算額が決定さる。
予算執行は、年度予算額を確認しながら行い、実績がオーバーする場合には、他の科目予算から科目変更を検討し、適宜調整している。
翌年度の5月上旬までに公認会計士によって、適切に監査が行われている。
財務についてホームページに公表している。

②今後の改善方策

特に無し。

(2) 学校関係者評価結果

①評価委員会からのご意見・ご質問

実施内容を具体的に記載があるとわかりやすい。

《基準9 法令等の遵守》

(1) 自己評価結果

①総括と課題

専修学校設置基準と国土交通省の設置基準に準じて、管理職が周知しており、学校運営が実施されている。必要書類は保管期間、責任部署が明記され、内容に準じて保管している。危険物などに関する事柄に関しては、教員研修を実施している。

個人情報、使用目的が学生配布のキャンパスナビに明記され、個人情報の取扱いに関する質問、ご意見対応なども担当窓口が明記されている。

自己点検・自己評価を基に、学校関係者評価を実施、評価内容をホームページで公表している。また、その都度改善している。

②今後の改善方策

今後、所轄官庁の要請を勘案しながら、JAMCAで実施している第三者評価を受けることを検討中。

(2) 学校関係者評価結果

- ①評価委員からのご意見・ご質問
特に無し。

《基準10 社会貢献・地域貢献》

(1) 自己評価結果

①総括と課題

学校施設の貸し出しや学校周辺の清掃活動、交通安全活動など各活動の位置付けを明確にし、ボランティアを活発かつ持続的に行っている。また、教育部の組織としてボランティア委員会が設置してあり支援体制もできている。

当校のオリジナルである自動車の技術教育を児童、生徒、企業に対して提供している。

地域の支えがあつての学校という観点から、引き続き地域貢献活動は更に積極的に実施する必要がある。

令和4年度は、学園祭は校内向けとして実施した。

②今後の改善方策

特に無し。

(2) 学校関係者評価結果

- ①評価委員からのご意見・ご質問
特に無し。

以上